

【活動報告】

尾張旭市子ども学習支援事業 Link Up サポーター研修 「～見えないものに寄り添うために～」開催報告

小田 奈緒美 古寺 浩

金城学院大学 消費生活科学研究所／生活環境学部

はじめに

2021年3月27日（土）、金城学院大学消費生活科学研究所の協賛と補助をいただいて金城学院大学にて「尾張旭市子ども学習支援事業 Link Upサポーター研修会」を開催いたしました。主催関係者、学生や市民を含む48名が参加して充実した研修となりました。研修会のプログラムは以下の通りです。

【日時】：2021年3月27日（土） 13:00～16:40

【会場】：金城学院大学 N2-215講義室

【主催】：NPO法人しみんシップnet

【協賛】：金城学院大学消費生活科学研究所、教育と福祉のエデュウェル

【後援】：大同メタル工業（株）、（株）スターシャル教育研究所、尾張旭市
愛知県教育委員会、愛知県社会福祉協議会、朝日新聞名古屋本社
グリーンシティケーブルテレビ

【プログラム】：2030 SDGs 誰ひとり取り残さない社会とは

受付・会場準備 13:00～13:30

第1部 13:30～15:00

「SDGsゲームで社会課題への取組みを学ぼう」

2030 SDGs 公認ファシリテーター（興亜商事（株）代表取締役）奥村雄介

第2部 15:10～

「ワークショップ 2030 SDGs 誰ひとり取り残さない社会とは」

ファシリテーター（A-sessions代表）上井靖

＜パネリスト＞ 金城学院大学 生活環境学部教授 古寺浩

大同メタル工業（株）人事企画センター主任 北川大樹

（株）スターシャル教育研究所 統括マネージャー 浅野弘幸

尾張旭市子ども食堂「おむすびや」代表 市野正枝

教育と福祉のエデュウェル代表 船坂礼子

しみんシップnetは、2015年4月（2016年8月10日法人格取得）に設立された特定非営利活動法人で、「出会い、気づき、社会につながる学習」をコンセプトに、社会に開かれた教育課程支援事業、コミュニティ・スクール支援事業、主権者教育支援事業、キャリア教育支援事業、地域社会課題解決支援事業、学習支援事業、家庭教育事業、キャリアコンサルタント派遣事業などを展開しています。大きな変革を迎えている教育現場において、社会に開かれた教育課程を視野に入れた様々な授業プログラムを構築し、実践している団体です。コミュニティ・スクール設置や地域学校協働活動が持続可能なものとなるための中間支援機能をもつ団体として、地域や教育行政と協働しています。

金城学院大学とのつながりは、生活マネジメント学科小田奈緒美ゼミ・古寺浩ゼミの学生を核として組織している生活マネジメント学科社会貢献プロジェクトチームの学生が、しみんシップnetが運営する尾張旭市子どもの学習支援事業Link upの見学をしたり、ボランティア参加したりするようになったことがきっかけでした。今回のイベントにも、生活マネジメント学科の3年生5名、2年生9名のあわせて14名が参加しました。



研修の前半は、「SDGsゲームで社会課題への取組みを学ぼう！」ということで、2030 SDGs 公認ファシリテーターで興和商事株式会社 代表取締役の奥村雄介氏による進行で、カードゲーム「2030SDGs」を通してSDGsを体験的に学びました。

参加者が3名ずつ14チームに分かれて、それぞれが与えられたお金と時間のカードを使いながら、プロジェクトを実施し、チームに与えられたゴールを目指します。チームは個々にそれぞれのゴールを持つ別々の組織ですが、すべてのチームが共有する世界の「経済」「環境」「社会」という3つの指標があります。例えば、経済発展を優先してプロジェクトを実施すると環境が汚染されたり、社会の不平等が拡大したりして、「経済」の指標は上がるものの、「環境」「社会」の指標は下がってしまいます。この指標は、会場では、ホワイトボードの色磁石で常に視覚的に共有されます。

第1ピリオドでは、「経済」はとても発展しましたが、「環境」「社会」は悪化し後退してしまいました。第2ピリオド開始前に現状についての解説があり、第2ピリオドでは、個々のチームが「環境」「社会」に配慮したプロジェクトを実施し、バランスの取れた世界へと近づ

けることができました。世界を大きく変えるためには、個々の組織、個々人が正しい情報や知識に基づいて行動することが大切だということを学びました。



研修の後半は、A-session代表の上井靖氏による進行で、SDGsについてのワークショップを通して、SDGsに関連した社会課題などについての理解や意見を共有しました。まず、4名ずつに分かれて、各自がSDGsの17の目標のうち3つを選んで机の上の大きな模造紙に書き、課題や解決策などを話し合い、模造紙にメモを書き足していきます。次に席替えをして、違う席で違うメンバーと同様な

話し合いをしますが、同じ目標やテーマについての話し合いであっても、メンバーが変わると出てくる意見が違い、これを共有することを繰り返しました。何が正しくて、何が間違っているということではなく、様々な立場の様々な人の考え方を共有できたとても有意義なワークショップでした。

なお、前半、後半ともに一部で個々の発言を伴う研修でしたので、参加者全員がマスクの上からマウスシールドをして感染予防対策を徹底しました。



※今回の研修は、金城学院大学消費生活科学研究所の協賛・補助をいただいて開催しました。